

おにばすノ葉

ナル、杯ノメグルニツレテ歌フ者、踊ル者、又遂ニハ酔ヒ倒レテ快眠ヲムサボル者、其夢ハ屢々 erotic dream
 ダソウデアル、カワカワニヨル泥酔ハ決シテ酒ノ様ニ兇暴性ヲ發揮スルコトガナイカラ昔ノ統治者ハ酒ヨリモ
 寧ロ之ヲ獎勵シタコトモアル由、現今日本ノ統治下ニ於テハ島民ノ健康ノ爲ニ之ヲ禁ジ、之ヲ飲用スルニハ警
 察ノ許可ヲ要スルコトニナツテ居ル

カワカワ常習ニヨル病症ハ之ヲ *Kawaismus* ト稱シ心身共ニ衰ヘ皮膚ノ光澤ハ失セ一種ノ皮膚症狀ヲ發スル、
 現今ニ於ルカワカワノ藥用ハ其樹脂ヲ白檀油ニ和シ淋病ニ用ヒル、蓋シ其利尿作用アルト、局處麻醉作用アル
 爲メ尿道ノ痛覺ヲ減少セシムルニヨルモノデアル、其麻醉性成分ハ樹脂狀物質デアツテ未ダ純粹ニ得ラレテ居
 ラス、村山義溫博士ハ嘗テ此成分ニ就テ詳シク研究シ藥學雜誌ニ報告シテ居ラレル

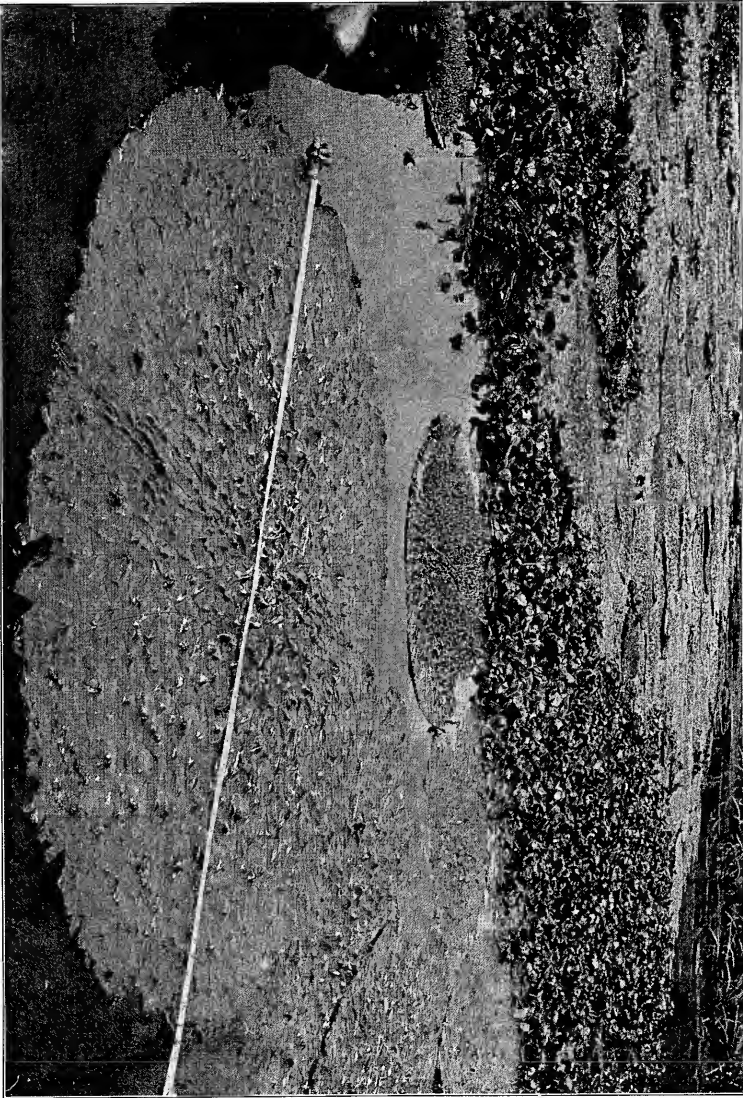
○おにばすノ葉

東北帝國大學助教 醫學士 岡田 要之助

前ニ一寸おにばす (*Euriale ferox* *Savrsb.*) ノコトニ就イテ書キマシタ折ニ (本誌三卷十一號、大正十五年) 此
 ノ植物ノ葉ガオソロシク大クナルコト、多分我邦ノ本土ニ於ケル最モ大キナ葉デアルデアロウコトナド書キ
 添ヘテ置キマシタガ、今回適當ナ寫眞ヲ得マシタカラオ目ニカケマス、第一圖、第二圖トモ同一ノ材料デ、一
 九二八年 (昭和三年) 八月二十三日富山縣氷見郡十二町村ニ於ケル撮影デアリマス、ソノ大サ横徑ニ於イテ
 1.91 m (6.3 ft) 目方ハ風乾後 347 g ヲ得タ所カラ推算シテ生重量約 646 g ト考ヘラレマス

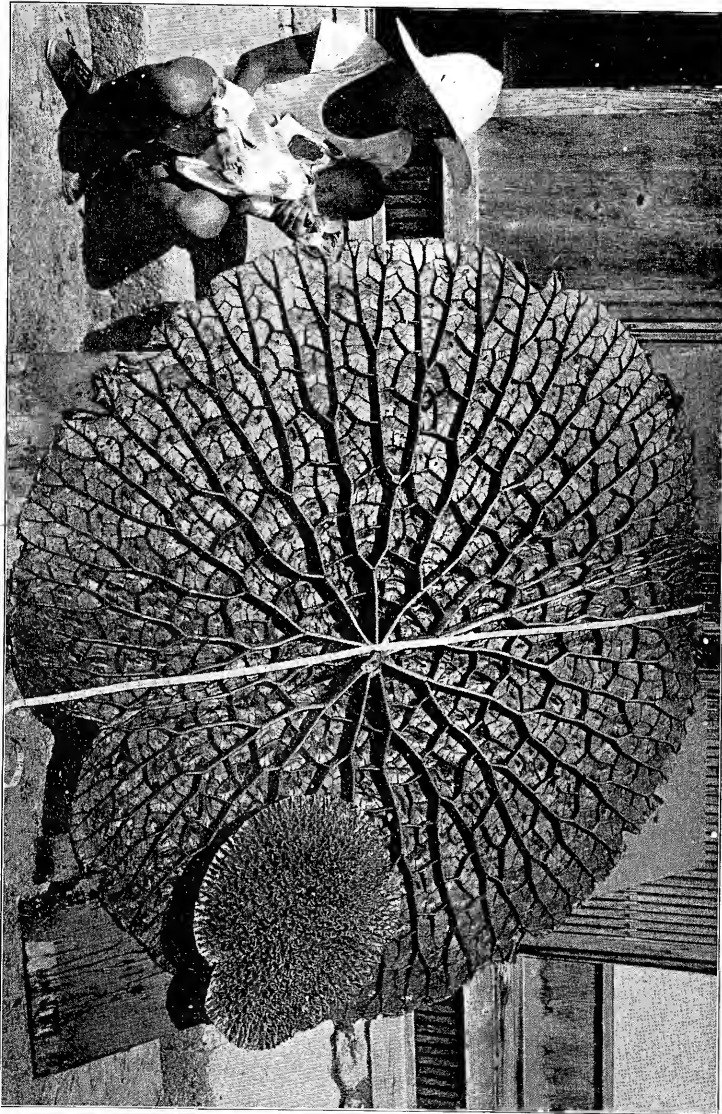
一體コノ植物ハ何レノ產地ニ於テモ可ナリ大キナ葉ヲ着ケマスガ多クノ場合ハ、徑二—三尺乃至四尺位ガ止リ
 デ本寫眞ニ示ス十二町所生 (或ハ同縣高岡市古城公園所生) ノ如キハ同ジクおにばすノ中デモ一種特異ノ品種
 ヲ表ハシテ居ルモノト考ヘラレマス

おにばすノ葉



第一圖 越中氷見郡十二町邊ニ於ケルおにばす (*Urtica perox* PAISSE.)

此ノヨウナ大キナ葉ノ現ハレルノハ大概八月下旬ヨリ九月初メ
ニカケテノヨウデス、從來ハ徑九尺餘ニ達スルモノガ見ラレタ
コトスラアツタソウデスガ(大正十一年)筆者ノ見タ中デハ本



第二圖 同處ノおにばす葉ノ裏面並ニ皺キ葉ノ表面

寫眞ニ示スモノハソノ最モ大キナモノデス、植物ノ葉モ六尺カラ上ニナルト中々美事ヲ殊ニソノ裏面ハ總體ニ暗紫色ノ所ヘ放射狀ノ脈ガ浮キ上ツガラ綠色ヲ呈シテ居ル様ガ如何ニモ美シク

見エマス

此ノ大サノ葉ガ出來上ルノニ幾日位カ、ルカトイヒマスト案外早ク生長スルモノラシク、御旅屋氏が高岡公園ノおにばすニ就イテ同一ノ葉ヲ日々繰リカヘシ測ラレタ結果デハ、最モ早イ時ハ二十四時間ニ就キ徑 25 cm.之ヲ一時間ニ割當テ見レバ 1 cm. 以上モ伸びテ行クコトガ判リマシタ、マタコノ葉ガ初メテ水面ニ現ハレル時ハ、直徑六―七寸ノ椀ノヨウナ形ヲシテ居リマスガ、ソレガ水ノ表面ニ平ニ擴ガリ初メテカラ完成シタ大サニナルマデハ約九日カ、ルトイフコトモ同氏ニヨツテ明カニセラレタ所デアリマス尙ホ筆者モコノ葉ノ生長ノ現象ニ就キ聊カ觀察シテ見マシシガ夜ノ間モ休マズ伸びツバケテ行クコトヲ知リマシタ
何シロ可ナリ大キナモノデスカラ一寸御紹介シテ見タ次第デスガ御序デデモアレバ上ノ十二町瀉ヲ實地ニ視察スルモ面白イコト、思ヒマス

○公孫樹(いてふ)ノちち

向 坂 道 治

大公孫樹ヲ仰ギ見ルト誰レデモ氣ニツクモノハソノ乳^{ちち}デアル、試ニ東京麻布ノ善福寺ニ行ツテ見レバ他ノ植物ニ見ナイ一種異様ナ珍奇ノモノガ幹枝ノ其處彼處ニ垂下シテ居ル即チソレガ所謂ちちデアル、始メテコノ乳ヲ植物學のニ研究セラレタノハ今ヲ距ル三十四年前即チ明治二十八年十一月二十日發行ノ植物學雜誌第八卷四百四十頁カラ四百四十四頁ニ互リ英文デ寫眞版附キデソノ論說ヲ發表セラレタ東京帝國大學理學部植物學教室ノ藤井健次郎博士デアツテ其論題ハ On the Nature and Origin of so called "Chichi" (Nipple) of Ginkgo biloba, L. (Preliminary Note.) デアル、今ソノ論文ノ摘譯ヲ左ニ錄シテ參考ニスル

「さてふガ現植物界ニ於テ只獨リ奇異ノ觀ヲ呈スルコト恰モ他國人ノ如シトハ學者ノ既ニ認定スル所ナリ、